

電気と「はかる」計器の歴史を訪ねて…… 3

エジソン国立記念館 ～ウェストオレンジ研究所跡～

松本 栄寿
横河電機(株)

エジソンはアメリカ人にとって英雄であり、日本人にとって最も親しまれた人物の一人であろう。発明家として、白熱電球をものにしたメンロパーク研究所時代の華やかさから、頑固に直流を支持した直流・交流論争時代の暗い面もあるが、19世紀から20世紀初めの電気技術史上の重要な時期の中心人物であった。

その1で紹介した電気歴史の情報源1 (*Archives and Manuscript Collections in US Repositories*) の52~53ページのトマス・エジソンを開いてみよう。そこには次の4か所が掲載されている。

E 007 : Edison Winter Home and Museum (Fort Meyers, FL)

E 008 : Edison National Historic Site (West Orange, NJ)

E 009 : Columbia Univ. Rare Book and Manuscript Library (New York, NY)

E 010 : Edison Birthplace Museum (Milan, OH)

詳細はそれらの記述を読んでいただくとして、まずニュージャージー州ウェストオレンジを訪ねた⁽¹⁾。



厳重な保管倉庫のエジソンの設計ノート



世界初の活動撮影
スタジオ
「ブラック・マリヤ」前のガイド説明

前号で紹介したニューアークの駅から車で約15分の距離にある。エジソンはすでに、ニュージャージー州のメンロパーク研究所時代に白熱電球や蓄音機の発明で発明王として名を成していた。彼は最初の妻を亡くしたあと二度目の妻ミナを迎え、ここウェストオレンジに研究工場を建てた。40歳のときである。

1887~1931年の間、科学者・技術者と200人の労働者たちと活動写真・アルカリ蓄電池・鉄鉱石の磁気選鉱法などの研究に没頭した。ここでの生活は真夜中の晩飯、デスクの上の仮眠など昼夜を分かたぬこともあった。現在のウェストオレンジには化学・冶金・機械・電気の研究工場跡と、復元した世界最初の活動撮影用スタジオ、ブラック・マリヤがある。

また徒歩数分のところにはエジソンの住居 (Glenmont House) 跡もあり、双方とも見学ツアーがある。管理はアメリカ政府、内務省の国立公園局 (National Park Service) が担当しており、ツアーの案内者も緑色のユニフォームを着ている。

入り口をくぐると初期の電信・電話・発電機・電灯・映画・蓄音機などが展示してある。約1時間のツアーで各工場研究所を案内してくれる。そこでエジソンの仕事ぶり

や、図書棚に囲まれ仮眠したベッドなども見ることができる。蓄音機のコレクションのコーナーでは、実際に蠟管式のレコードを再生して聞かせてくれるが、音の大きいことと音質の良いこと、参加者だれしもが驚くほどである。

収集品は、物が40万点、アーカイブとして保管庫には文書が500万ページある。エジソン個人と企業の通信文・研究ノート・特許などで、筆者はエジソン直筆の設計ノートの一部をのぞき見ることができた。

なお、外部からアーカイブスを利用しようとする研究者は、2週間前までに予約が必要である⁽²⁾。またエジソンの親しい友人であったヘンリー・フォードは、デトロイト郊外のフォード博物館にエジソンのメンロパーク研究所をそっくり移設・再現している⁽³⁾。

注

(1) 所在地は Edison National Historic Site, Main Street and Lakeside Avenue, West Orange, New Jersey 07052

(2) 研究のために訪れる人には George D. Tselos : *The National Archives—Access Policy and Research Procedure* をあらかじめ入手することをお勧めする。利用法・手順、アーカイブスの内容、近所のホテルまで説明されている。

(3) Henry Ford Museum & Greenfield Village, 20900 Oakwood Blvd, Dearborn Michigan 48121-1970